

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191700046		
法人名	有限会社ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ温		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金303-1		
自己評価作成日	令和4年1月14日	評価結果市町村受理日	令和4年6月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JijyoNoCd=0191700046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JijyoNoCd=0191700046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和4年5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外靴をはかなくても、そのまま出られるテラスが自慢です。</li> <li>・手作りの木製椅子が置いてあり、中庭の花や野菜、畑が見えます。</li> <li>・テーブルを用意し、テラスで食事をする事もできます。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームすえひろ温(ぬくもり)は、町の中心に近い2ユニットの事業所です。広い玄関ホールを中心に両翼にユニットが配置された平屋建ての開放的な設計で、利用者は建物内や屋外デッキを自由に行き来することができます。令和3年に系列のグループホームより、利用者5名と職員が加わり新体制となっています。事業所では、利用者の生活を支えるという一方的な関係ではなく、一緒に生活を送ることで利用者の安心や自信を引き出し、笑顔や笑い声の絶えない生活を目指しています。利用者一人ひとりの個性を大切に、認知症になってもその人らしい生活を送れるよう、センター方式のアセスメントを活用しています。感染症の流行が落ち着いた後に外出や利用者が楽しめる行事、地域交流などを検討しています。</p>
--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員2/3くらいが 3 職員1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で理念を復唱し、共有し実践に努めている。	開設時からの事業所の倫理・ケア理念である「笑顔のある穏やかな生活を目指します」を日々の支援で実践しています。理念を玄関に掲げ、職員会議で唱和するなど職員を意識する機会を設けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は慰問等もあったが、コロナもあり現在は日常的に交流はしていない。	新型コロナウイルスの蔓延により、今までのような地域との付き合いができなくなっていますが、地域住民との関わりは花壇の整備や避難訓練への住民の参加などで継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新聞を作成し、ホーム内の様子を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方に、ホーム内の様子や状況を報告している。	令和3年度は5回書面会議を行いました。会議の構成員には議事内容を報告しています。事業所の現状は写真を数多く掲載した毎月発行の事業所通信で伝え、委員が意見を表明しやすい工夫をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため参加できていないが、職員間で情報を共有している。	事業所に毎日2回、町からの放送を受信する防災無線を設置しています。町の担当部署とのやり取りは、本部が一括して行っています。事業所では介護認定調査に訪れた保健師と情報交換を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍のため参加できていないが、職員間で情報を共有している。 夜間のみ防犯対策のため施錠している。	事業所独自のマニュアルを作成して、職員間で情報を共有しています。新入職員には、入職時に都度、身体拘束のグレーゾーンへの対応等を指導しています。法人として身体拘束について話し合いを行う委員会を設け、系列の施設と共に取組んでいます。	身体拘束の排除のための委員会を設置していますが、職員全員に対する研修や、委員会での取組の周知は行っていません。今後は、一人ひとりの職員が定期的に学ぶ機会を作り日々のケアで意識化していくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に、利用されている方がいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者が説明し、理解が得られるように対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から思いをくみ取り、ご家族からも面会や電話の際に伺い、反映するように努めている。	感染症蔓延以前は家族会などで意見を聴取していましたが、今年度は家族の来訪時や面会、電話連絡の際に積極的に意見を得るよう努めています。面会方法についての意見に速やかに対応した事例があります。	家族からの意見等への対応を行っていますが、内容について記録を作成していません。事業所側から積極的に意見を取入れる姿勢を明確にし、改善や反映の結果をフィードバックしていくことを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議で意見交換等を行っている。	感染症予防のため、事業所全体で行う会議の回数を制限し、ユニット内での連携を行っています。職員の働き方の希望を尊重し、有給休暇取得を勧めたり、シフト作成を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前は個人面談が行われていた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会等に参加している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人の意向等を傾聴し、信頼関係の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や面会、電話の際に伺い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サポートしながら、本人の持っている力が発揮できるよう対応している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報等を共有し、信頼関係を築きながら、本人を支えていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は馴染みの理容室へ行っていた方がいた。現在はコロナ禍のため行えていない。	馴染みの関係を継続するために、玄関ホールでの面会や窓ガラス越しでの面会など、地域の感染状況を踏まえ対応しています。今後の感染症リスクを検討し、利用者と関係者双方の利便性や気持ちに沿った対応を検討しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操等に職員が関わり、孤立しないよう、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町で会った時などに挨拶する機会がある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用している。 ユニット会議で話し合い意向の把握に努めている。	職員は利用者の表情や態度から思いや意向の把握に努めています。得られた思いはセンター方式でアセスメントするとともに、毎日の申し送り職員間で共有し、利用者本位に検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族との会話から把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	伝達ノートを活用し、情報の共有と現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、本人、ご家族の要望等を聞き、ユニット会議で話し合い介護計画を作成している。	センター方式を用いて情報を整理し、計画作成担当者が介護計画を作成しています。利用者のできなくなったことの支援を中心とし、計画は3か月ごとに更新するとともに、利用者に変化があった場合は随時変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、伝達ノートへ記入して、情報共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて職員同士が連携を取りながら、様々な支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は町民文化祭への展示、見学、秋祭りの山車見学等も行っていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受けています。 今金国保病院、野の花今金診療所、八雲総合病院精神科	利用者や家族はかかりつけ医を選ぶことができます。利用者の通院には職員が同行し、日頃の状況等を医師に伝えています。通院結果は都度、家族へ報告しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化した時など、都度相談し受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護連絡書を提出し、情報交換等に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族と病院と相談しながら、支援に取り組んでいる。 看取り指針はご家族より同意書を頂いている。	看取りや重度化の方針を定め、入居時に利用者や家族に説明し同意を得ています。また、利用者と家族それぞれの終末期の希望を記録しています。利用者の状況の変化に応じて、家族と医師を交えて話し合いを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。 非常食を備蓄している。	年2回昼、夜想定で避難訓練を行っています。 避難訓練時に備蓄や備品のチェックを行い、非常時に備えています。法人全体のBCPは、本部が一括し、町とも相談しながら策定を進めています。	毎月の防火点検など、減災にも取り組んでいます。今後も予防や非常時対応の訓練等を継続し、法人内の他施設とも非常時の協力体制を築いていくことを期待しています。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声のトーンなどに注意しながら対応している。	職員に対し、日ごろから守秘義務の遵守を伝えていきます。職員は利用者ひとり一人の人格や尊厳を尊重し、言葉遣いや声のトーンなどに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け、手助けなどをし、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、代替えなどの工夫をし提供している。 調理の下ごしらえ、食事の後片付けをしてくださる。	日々の食事に旬のものを取り入れ、季節の変化が楽しめるようにしています。利用者は職員と共に、料理の下ごしらえや食事の後片付けなどを行っています。誕生日会などには、ケーキやぼた餅など、利用者の要望をメニューに反映しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量を提供している。 水分チェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛け誘導を行っている。 パット類の使用枚数を減らすのは難しくなっている。	利用者ごとに排泄のパターンを記録し、適時での声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。日々の状況に合わせた支援方法は、申し送りノートに記録し、職員間で共有しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況、水分摂取量を把握し、医師に相談して下剤の調整を行っている。 体操等で体を動かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	曜日を指定される方もいますが、個々に合わせて入浴を楽しんで頂いている。 拒否時にはムリせず次回へつなげている。	入浴時間や温度、入浴の順番など、利用者の希望を優先して支援しています。入浴に拒否のある利用者には無理強いをせず、入浴後に好きな飲み物を用意するなど、楽しく入浴できる工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや居室で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更等は個人記録、伝達ノートに記入し情報の共有に努めている。 誤薬のないよう確認を行い対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に合わせながら支援している。 レク等で気分転換を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏はテラスで外気浴をしたり、ドライブ等にも出かけている。	感染症の流行もあり、従来のような頻回な外出は難しくなっていますが、お花見がてらのドライブや近所への散歩など、外出の機会を作りにしています。また、個別の外出支援は、家族と調整して対応しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している人はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らメモに思い等を記入し渡す方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁飾りの工夫をしている。 室温、湿度に気配りし、冬場は保湿タオルを施行している。	季節感を感じられるように、壁の飾りなどは行事ごとに工夫しています。利用者間の関係に配慮しつつ、個々の利用者がくつろげるように座席を配置しています。温度や湿度など、利用者が快適に過ごせるように調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等のある場所があり、自由に座り過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切な物などを置き、工夫している。	利用者が心地よく過ごせるように、使い慣れた家具を持ち込んだり、家族の写真や本人の大切なものを置くなど、落ち着いて暮らせる環境作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレの場所をわかりやすく表示している。 入浴時にはスベリ止めマットを使用している。		